

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年1月19日 (2017.1.19)

【公開番号】特開2014-239716(P2014-239716A)
 【公開日】平成26年12月25日 (2014.12.25)
 【年通号数】公開・登録公報2014-071
 【出願番号】特願2013-122397(P2013-122397)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 B

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】
 【提出日】平成28年11月30日 (2016.11.30)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

入賞領域を備えた遊技機であって、
前記入賞領域に設けられ前記入賞領域を遊技媒体が通過したことを検出するための検出手段と、
電波を検出するための電波センサと、
前記電波センサによって電波が検出された場合に、電波センサエラーが発生したと判定する電波センサエラー判定手段と、
前記電波センサエラー判定手段によって電波センサエラーが発生したと判定された場合に、所定のエラー情報を出力するエラー情報出力手段と、
前記検出手段が遊技媒体の通過を検出している状態が所定期間継続する度に、連続検出エラーが発生したと判定する連続検出エラー判定手段と、
前記連続検出エラー判定手段によって連続検出エラーが発生したと判定される度に、出力手段を用いて特定期間にわたって連続検出エラー情報を出力する連続検出エラー情報出力手段とを備えた
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】削除
 【補正の内容】
 【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 9】

本発明は、入賞領域における球詰まりの発生を検知することができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(手段 A) 本発明による遊技機は、入賞領域（例えば、始動入賞口や大入賞口、入賞口、ゲート 32）を備えた遊技機であって、入賞領域に設けられ入賞領域を遊技媒体が通過したことを検出するための検出手段（例えば、始動口スイッチ 14a やカウントスイッチ 23、入賞口スイッチ 29a, 30a、ゲートスイッチ 32a）と、電波を検出するための電波センサ（例えば、電波センサ 61）と、電波センサによって電波が検出された場合に、電波センサエラーが発生したと判定する電波センサエラー判定手段（例えば、CPU 56 によってステップ S 264, S 265 の処理が実行される部分）と、電波センサエラー判定手段によって電波センサエラーが発生したと判定された場合に、所定のエラー情報（セキュリティ信号）を出力するエラー情報出力手段（例えば、CPU 56 によって情報出力処理のステップ S 1004 ~ S 1015 の処理が実行される部分）と、検出手段が遊技媒体の通過を検出している状態が所定期間継続する度に、連続検出エラーが発生したと判定する連続検出エラー判定手段と、連続検出エラー判定手段によって連続検出エラーが発生したと判定される度に、出力手段を用いて特定期間にわたって連続検出エラー情報を出力する連続検出エラー情報出力手段とを備えたことを特徴とする。

そのような構成により、入賞領域における球詰まりの発生を検知することができる。

(手段 1) 本発明による他の遊技機は、第 1 入賞領域（例えば、始動入賞口や大入賞口、入賞口、ゲート 32）と第 2 入賞領域（例えば、始動入賞口や大入賞口、入賞口、ゲート 32）とを備えた遊技機であって、第 1 入賞領域に設けられ第 1 入賞領域を遊技媒体が通過したことを検出するための第 1 検出手段（例えば、始動口スイッチ 14a やカウントスイッチ 23、入賞口スイッチ 29a, 30a、ゲートスイッチ 32a）と、第 2 入賞領域に設けられ第 2 入賞領域を遊技媒体が通過したことを検出するための第 2 検出手段（例えば、始動口スイッチ 14a やカウントスイッチ 23、入賞口スイッチ 29a, 30a、ゲートスイッチ 32a）と、第 1 検出手段が遊技媒体の通過を検出した時点から第 1 監視期間（図 15 に示す監視期間）を経過するまでに該第 1 検出手段が遊技媒体の通過を再度検出した回数を計数する第 1 計数手段（例えば、CPU 56 によって始動口スイッチ判定処理（ステップ S 259a）のステップ S 2507, S 2508 の処理が実行される部分）と、第 2 検出手段が遊技媒体の通過を検出した時点から第 2 監視期間（図 15 に示す監視期間）を経過するまでに該第 2 検出手段が遊技媒体の通過を再度検出した回数を計数する第 2 計数手段（例えば、CPU 56 によって入賞口スイッチ判定処理（ステップ S 259b）において始動口スイッチ判定処理（ステップ S 259a）のステップ S 2507, S 2508 に相当する処理が実行される部分）と、第 1 計数手段が計数した回数が所定回数となった場合に、エラーが発生したと判定する第 1 エラー判定手段（例えば、CPU 56 によって始動口スイッチ判定処理（ステップ S 259a）のステップ S 2511, S 2512 の処理が実行される部分）と、第 2 計数手段が計数した回数が所定回数となった場合に、エラーが発生したと判定する第 2 エラー判定手段（例えば、CPU 56 によって入賞口スイッチ判定処理（ステップ S 259b）において始動口スイッチ判定処理（ステップ S 259a）のステップ S 2511, S 2512 に相当する処理が実行される部分）と、電波を検出するための電波センサ（例えば、電波センサ 61）と、電波センサによって電波が検出された場合に、電波センサエラーが発生したと判定する電波センサエラー判定手段（例えば、CPU 56 によってステップ S 264, S 265 の処理が実行される部分）と、第 1 エラー判定手段、第 2 エラー判定手段によってエラーが発生したと判定された場合

と、電波センサエラー判定手段によって電波センサエラーが発生したと判定された場合とで、所定のエラー情報（セキュリティ信号）を出力するエラー情報出力手段（例えば、CPU 56によって情報出力処理のステップS 1004～S 1015の処理が実行される部分）とを備え、エラー情報出力手段は、第1エラー判定手段または第2エラー判定手段によってエラーが発生したと判定されたときに、共通の出力手段（例えば、ターミナル基板160に設けられたコネクタCN 8）を用いて所定の出力期間（例えば、0.2秒）にわたってエラー情報を出力し、第1エラー判定手段の判定にもとづいてエラー情報を出力している出力期間内に第2エラー判定手段によってエラーが発生したと判定された場合には、該出力期間が経過し、さらに所定の待機期間が経過した後共通の出力手段を用いて所定の出力期間にわたってエラー情報を出力し（例えば、CPU 56によって情報出力処理のステップS 1004～S 1015の処理が実行される部分）、第1計数手段は、計数した回数が所定回数となったことにもとづいて第1エラー判定手段によってエラーが発生したと判定された場合には、計数した回数を初期化する（例えば、CPU 56によってステップS 2513の処理が実行される部分）ことを特徴とする。

そのような構成により、エラー情報を出力しているときに新たにエラーが発生した場合にも、新たにエラーが発生したことにもとづくエラー情報を共通の出力手段を用いて出力することができる。